

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会 ♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK 会報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第636号

(毎月10日発行) 2025年3月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本 光子

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-1-2

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥2025.3.10♥♥♥ No.189 ♥♥♥♥♥

増える通級指導教室



NPO 法人 ことばを育てる親の会北海道協議会

副会長 齋藤 寛子

(札幌市ことばを育てる親の会 会長)

残雪の中にも春の兆しが見え隠れする季節となりました。朝起きぬけの空や、一日の業務を終えて外に出ると、ずいぶんと明るくなっていて春の解放感を感じます。

今年度で卒業や通級を修了される皆様に心からお祝いを申し上げますとともに、当法人の活動に対し、ご理解ご協力をいただいておりますことにお礼を申し上げます。

さて、2020年12月(No.173)のHSKは、当時の理事である石川俊男先生が巻頭言を書かれています。その中で、石川先生と親の会の関わりは昭和51年(1976年)からであること、石川先生が新卒で着任されたころの札幌市のことばの教室は、大通小・幌北小・南郷小の3校で、全道的にも40か所ほどの教室があり、そのころは毎年のように新規開設があったという記載があります。

その後、札幌市内各区に開設されいき、わたしが親の会に関わるようになった平成24年(2012年)までには、小・中合わせて12教室になっていました。そのころの教育委員会への主な要望内容は、中学の通級教室を開設すること・北区に2校目の通級教室を開設することなどでした。平成25年(2013年)の時点で「10年間要望し続けている」という記載があるので、平成15年(2003年)以降の新規開設はなかったということがわかります。そして、平成28年(2016年)に要望しつづけていた北区に待望の2校目である篠路小が開設されます。13年ぶり13校目のことばの教室開設です。そこから令和6年(2024年)まで、札幌市の親の会では、中学校の開設・環境整備などを変わず要望し続けるも、新規の開設は叶うことがありませんでした。理由は、通級希望人数・加配・予算などさまざまです。

しかし、状況が一変しました。

令和6年(2024年)9月6日に文部科学省から【「特別支援教育体制整備状況調査」及び「通級による指導実施状況調査」の結果について(周知)】が周知されます。すると、令和6年(2024年)4月に、厚別区 信濃小・西区 八軒西小・南区 真駒内中の3校が一気に開設されました。中学校の新規開設は、おそらく1970年代から半世紀の時を超えての開設です!そして、今年、令和7年(2025

年)4月には、新たに手稲区 稲穂小・清田区 北野中が開設予定で、札幌市のことばの教室は、18教室になる予定です。

周知の中には、「児童生徒が在籍校の慣れた環境で安心して指導を受けられるようにするため、自校通級や巡回指導の一層の促進も進めていただきたいこと。」「全ての中学校に特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍している可能性があることを前提に、各教育委員会においては通級による指導体制の充実に努めること。」と記載があるので、政令都市であり、小規模特認校以外のほとんどの小学校に特別支援学級が整備されている札幌市では、今後もこれまでにないスピードで通級指導教室が開設されていくと予測されます。

「どんどん通級が増える!」本来であれば、これほど喜ばしいことはないはずです。

しかし、昨年、新規開設校にお邪魔して、愕然としました。静かで落ち着いた環境であるべき指導室にオープン教室があてられていたり、給食準備室が隣だったり、とても理想的とはいえないものでした。また、既存校には必ず設置されている指導準備室や保護者待合室もありません。新規開設の通級で担当になった先生たちは、児童生徒との信頼関係づくりや指導内容の工夫など、どんなに時間があっても足りないほどだと思えます。そのような状況にさらに環境づくりの工夫までしなければならぬと考えると、どれほどのご負担かと想像してしまいます。担当者の創意工夫ではどうにもならないのが設備や整備の環境です。それは、大切な子どもを預ける保護者の不信感にもつながりかねないことです。何より通級する子どもたちのためになりません。

札幌市の親の会では、安全で安心でき、通常級にもどったときに効果が表れるような指導のために、必要な指導環境条件を整えてほしいと、今後も丁寧に教育委員会との意見交換を続けていくつもりです。

また、この動きは全国的なものであると思われるため、北海道協議会では、北海道教育委員会や北海道内各地区ともこれまで以上に情報交換を密にしていかなければならないと感じています。道内には親の会が活動休止を余儀なくされている地域もありますが、先生たちや保護者たちと手を取り合って、「通級」が求められている時代に対応していく北海道協議会であることができればと思います。



第95回 理事会報告



1月25日(土)に第95回理事会がリモート開催されました。

- ・各地区からいただいたアンケート結果を共有しました。全国向けのアンケートは、全国ことばを育む会に送りました。アンケートへのご協力ありがとうございました。
- ・次年度予算と、次年度活動計画の原案を検討しました。
- ・総会や意見交換会の計画について話し合われました。
- ・次回理事会は、3月8日(土)の13時に予定されています。

令和6年度の親の会北海道協議会の事業として「地区研修補助事業」を計画し希望する地区を応募しました。夕張地区が『保護者研修会』の計画を申し出られ受理されましたので、実施報告を掲載いたします。



夕張市ことばを育てる親の会

保護者研修会を開催しました



令和6年12月1日(日)ゆうばり小学校eルームで、道地区研修補助事業「保護者研修会」を行いました。親の会北海道協議会の山本会長と太田理事をお招きして、「親の会って何?」というテーマでお話していただきました。研修会の間、子どもたちは職員と一緒にレクレーションを楽しみました。

山本会長からは、我が子が通級を勧められたときに感じた葛藤、親の会に関わることになったきっかけ、親の会の活動を通して得られたこと、太田理事からは、通級指導教室の先生になろうと思ったきっかけ、ことばの教室に対する思いなどのお話をいただきました。参加された保護者からは、

- ・「山本会長の思いと重なる部分があってとても共感できた」
- ・「親の会に関わることで他の親御さんの思いを知り、悩んでいたのは自分だけじゃないと思えた」
- ・「我が子が不登校になってしまったが、ことばの教室に繋がっていたので、頼れる場があってよかった」
- ・「ことばの教室に通って子どものことをより理解できるようになった」
- ・「同じ悩みを持った人たちが集まれる時間がとてもありがたかった」
- ・「親の会はそんなに敷居の高いところではないと改めて思った」
- ・「育児の中での不安を相談できる場所がある、という強みができた」
- ・「いろいろな人に支えられてことばの教室があると知れてよかった」



など、たくさんの感想をいただきました。

山本会長の力強いことばに勇気をもらい、太田理事の優しく語りかける一つひとつのことばが心を温かく包み込んでくださって、また明日からがんばろう、と思える実り多い研修会となりました。

お二人には遠い夕張までお越しいただきました。本当にありがとうございました。

これからも夕張地区の親の会は、子どもたちの笑顔のために、みんなで手をつなぎ合って活動に取り組んでいきたいと思えます。





第2回 WEB 茶話会が開催されました。今回は大空町通級指導教室「すまいる」の高川 康先生をお招きして、中学校の通級指導教室の開設をめぐる経緯や保護者や子どもたちが何を望んでいるかというお話を聞くことができました。

窓の外は真冬の寒さでしたが、ほっこりするお話に元気をいただきました。

高川先生からのコメント



今回の研修会では、「中学校の通級指導教室に設置について」というテーマでお話をさせていただきました。オホーツク管内では、通級を中学校に設置した自治体が現れ始めていました。お話を伺うとその町には学校の先生や保健師、幼児関係者、専門家等からなる多職種チームがあり、教育委員会に要望して実現したようです。

しかし、大空町には、他職種チームどころか親の会もありません。

子どもの進学を控えた保護者がそれぞれで教育委員会に中学校教室の設置を要望したようです。しかし、教育委員会は、組織的な要望ではなく、個々の保護者からの要望のみでは動きにくいというようでした。そこで、小学校の通級担当が、通級児童の保護者向けアンケートを Google フォームを用いて、実施。「中学校の通級指導教室設置」について尋ねました。その結果、回答者のほぼ全員が「中学校にも必要」と回答。「自分の子を通わせたいですか」の質問にもほとんど親が「無条件でぜひ通わせたい」「時間割調整されるのなら、通わせたい」との回答でした。

指導内容の希望について尋ねると、1位が「人とのコミュニケーション」、2位が「心と体の健康維持」についてであり、「学習の仕方の学習は」は3位でした。このアンケート結果を教育委員会に報告。しばらく反応はありませんでしたが、秋になって急遽、設置の動きが始まりました。小6、中1、2年の保護者あての通級希望調査を受けた教育相談の実施はハードスケジュールでしたが、何とか今年度、設置にこぎつけました。

通級する生徒にアンケートをとったところ、「小学校の延長で、知っている先生と話しやすい」などの声が聞かれました。

中学校への設置によって、小中連携が深まり、また小学校での通級指導の内容が適切だったかを振り返る機会にもなっています。一方、課題も多くあります。エアコンなどの教室の環境整備や予算、時間割調整の仕方など、ひとつひとつ解決に取り組んでいきます。

今回の研修会では参加された保護者の皆さんのお話はたいへん参考になりました。もう卒業して大きくなった子が「通級がなかったら、今の自分はなかった」と言っているとお話が身に沁みました。子どもの育ちを長い目で見通しながら指導にあたることの大切さを改めて感じました。こうした「先輩の親の話」を聞いたり、親同士が悩みを共有する場を当町にも作りたいと思っています。

しかし、それぞれが孤軍奮闘する世の中で、それを実現することの難しさも感じています。

今、どこでもそうだと思います。どうしていったらいいのでしょうか。

参加者の声

チャットで参加された方の感想をお届けします。参加者は講師の先生を含めて13名でした。

- とても参考になるお話が聞けて大変ありがたかったです。今回のお話を参考に、今後中学校通級開設に向けて、他の通級担当者や保護者の方に情報共有していきたいと思います。本日はありがとうございました。(千歳 先生)
- 帯広地区は親の会が休止することになり、これまで陳情でことばの教室を開設されてきた歴史を思うと残念でなりません。親の会の方とはこれからも繋がっていきたいと思いますので、どうぞよろしくおねがいいたします。(帯広 先生)
- 帯広地区の通級の巡回指導については、単年度ごとの措置なので、これが次年度以降も定着していくとよいと思いました。(帯広 先生)
- 本日は参加させていただきありがとうございました。(札幌 元通級児)
- ありがとうございました。(音更 先生)
- 今回参加させていただき、改めて通級が親子ともに支えになって今があると感じました。皆さんのお話を伺うことで、各エリアでの状況を目の当たりし、各地区での様々な思いに触れ、札幌も頑張ろうと思うとともに、子どもたちのために今なにができるのかしっかりと考えて行動していく必要があるのかと思いました。高川先生、皆様ありがとうございました。(札幌 保護者)
- 高川先生のお話をうかがいとてもご苦心があるなか小学校、中学校の通級指導をされていることに率直の感想として、札幌市で暮らし、子どもが小・中・高校と通級指導に関わることができてよかったと思っています。通級に通わせた体験者として中学校の通級が必要かと問われれば、私は必要だと思います。それは、子どもだけでなく親としても相談の窓口としての役割があるからです。今体制を整えている最中なのは、親も未来が見えず、先生は奮闘し、子どもはマイペースですが、子どものためだけでなく親が必要になることなのでよい方向に発展できればいいなあとと思いました。
(札幌 道事務局 保護者)
- 新たに開設され、用意された通級指導教室の施設設備は、残念ながら粗末なものでした。親の会の力が弱くなって、子どもたちが粗末にされているようでとても考えさせられました。
(札幌 道理事)
- 思春期の大事な時期に相談でき支えがあることはとても大事だと感じます。教室設置の要望を保護者が一人で教育委員会にお願いに行ってもなかなか届かないということが現実だとわかりました。そこをつなぐのが、教室の先生だったり仲間だったり親の会なのだが高川先生のお話を聞いて実感しました。貴重なお話、ありがとうございました。(札幌 道理事)





地区紹介

美瑛町ことばを育てる親の会



美瑛町ことばを育てる親の会の活動は、年2回の「学習会」と親子で楽しめる「親子工作」、そして「親子レクリエーション」を実施しています。

「学習会」は、どんな話を聞きたいか役員会で出し合い、

講師の方をお呼びしての学習会、そして講演の後に講師の方を交えての座談会を行っています。美瑛町の小中学生

の全戸に案内を配布するだけでなく、幼稚園、保育園、支援センターなどでも宣伝をし、会員だけではなく広く参加を募っています。参加者同士が交流し、日常の悩みを聞いてもらったり、子育てのヒントをもらったりする機会場となっ

ています。

「親子工作」では、UV ストラップ作りとスーパーボール作りをしました。おうちの人が見守りながら作る子、「手伝ってー」とお願いをして保護者と一緒に作る子など様々です。できたものに歓声をあげたり、一緒に遊んだりするなど親子で楽しいひと時を過ごしました。

「親子レク」は昨年大好評だった「バナナボート&ラフティング体験」を実施しました。家族みんなで参加したり賛助会員の方も参加したりするなど、にぎやかなひと時となりました。時間が許す限り何度も乗り、大満足！「ヘルメット貸して！」「一緒に乗ろう！」など上手に関わり合いながら遊んでいました。待ち時間には雪山でそり滑りをしたり、体を雪で埋めたり、雪を掛け合ったりして夢中で遊びました。

今後も、親と子どもの笑顔のために充実した活動をしていきたいと思ひます。

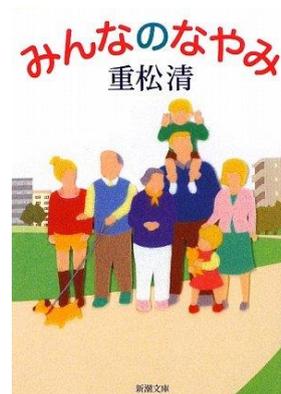
ことばを育てる親の会 会長 近藤 明美



図書紹介

みんなのなやみ

重松 清 著
新潮社 693 円



私がこの本を知ったのは、10年くらい前にA君という高校生との出会いの時でした。「読んだことありますか」「とてもいい本です」と見せてくれました。重松清さんと言えば、国語の教科書に「カレーライス」というお話が載っていました。重松さん自身が吃音をかかえて、吃音を題材にした映画や小説も書かれています。どんな本なんだろうと読んでみました。

まえがきにもありますが、この本はなやみを消し去るための本ではない、人間とはなやんでしまう動物なんだ。自分自身が親とのことで悩んできて、今は自分の子どものことでも悩んでいる。なやみのつき合い方をいっしょに考えようという重松節で始まります。

出版社が10代の子どもたちになやみを募り、ICレコーダーで重松さんは語り、まとめた本だということです。自分の声で詰まりながら沈黙しながら語りたかったという返し方の本なのです。

小学生の高学年から高校生の悩みがずっしり。「自分だけ余りになってしまう」「自分の居場所は、ないかもしれない」「受験させられた」「どういうことがつき合うってこと?」「自分の心が苦しい」「周りの目が、気になる」そんな問いに我が子もそうかもしれない、こんなふうにかかれたらどうしたらいいのか。重松さんは、丁寧に考えてことばを束ねていきます。

真帆さん(15歳)は「妹は生まれつき体と知能にけっこう重度の障害があります。妹だからもちろんかわいいけど、生まれたときの私なりのショックは覚えていて、それを親にずっと言えずにきました。妹のことを思うと、楽しいことがあっても心から喜べない自分がいます。大きくなって親が死んだら、妹の不自由な体をおぎないながら、私が面倒を見るのだと思いますが、私のような場合、将来どんなふうにかえたらいいのでしょうか」と質問します。

重松さんはこう語ります。

『みんなのなやみ』という本を出しながら、自分がいかに身の程知らずのことをしているか、打ちのめされたし、思い知らされた気分でした。きれいごとを言う自分に「ふざけるな」と思ってほしいと言った後に、自分の吃音について語ります。うまくしゃべれないという最大のコンプレックスと周りの同情するような表情や嫌悪の態度から気づいたことは、吃音のおかげで相手がどういう人間か、ひとを見抜くことができるとようになった。友だちとして付き合っている人たちはどもることを丸ごと包み込んでくれた人だと。真帆さんをつながりたいと願う人は大切なかけがいのない存在になる。心から楽しめない自分も大切に自分を肯定してほしい、と願うように語ります。

重松さんは子どもたちのことばと一緒になやんだり大人として謝ったり、ほっとするような考え方が綴られています。子どもにも大人にもお薦めの本です。安いの魅力です。

(文責 理事 太田 真知子)



事務局から



今年度もご協力
ありがとうございました。

🌸 令和7年度の総会のご案内です。遠くの方もたくさん集まり情報を交換できたらと思います。

日 時 令和7年5月17日(土)午前中

会 場 かでる27 1040会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)

開催方法 対面とオンラインの併用(ハイブリッド)

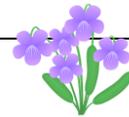
詳細は後日お知らせします。

🍁 地区分担金の送金先は次の通りです。総会資料に同封した振込票をお使いください。
(ゆうちょ銀行のATMを利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、ご負担をお願いいたします)
なお、会長交代に伴う名義変更手続きが終了するまで、下記送金先でお願いいたします。

👤 **準会員(事業に協力して下さる個人、法人、任意の団体)を募集しています。**

また協議会の事業に賛同して下さる方の寄付も大歓迎です。送金の場合は振込用紙の通信欄に「準会員会費」「寄付」とご明記ください。

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 福井 紀郎



HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2025年3月10日会報189号(HSK通巻636号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 山本 光子

定価 100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12 札幌市立中央小学校ことばの教室内 TEL 011-241-2533